

研究基本構想図

【学校教育目標】

じょうぶな子 考えてやりぬく子 思いやりのある子

【「考えてやりぬく子」にかかる目指す子どもの姿】

- 知識や技能を身に付け、生かすことができる子（知識・技能）
- 多面的に、筋道立てて考え、表現することができる子（思考・判断・表現）
- 目標に向かって努力し続け、最後までやりぬくことができる子（主体的に学習に取り組む態度）

【研究主題】

主体的に考え、表現し、学び合う子ども
～「対話」を大切にした授業づくりのあり方（算数科）～

【研究内容】

1 「対話」を大切にした授業づくり

本校が考える「対話」とは、
自己および多様な他者・事象と積極的にかかわり、
よりよい考えを形成するための学習活動

単元・本時のねらい、児童の実態に応じて授業者が重点を決め、位置付ける。

自己との対話	他者との対話	事象との対話
自分事の問題・見直しをもつ	考えを見つける話し合い	数理的な問題把握・課題設定
考えをもつための自力解決	考えを確かめる話し合い	統合的・発展的に考える
成長や変容を促すための振り返り	考えを広げる・深める話し合い	活用・意味づけ

2 学習展開の工夫

- (1) 振り返り（児童の振り返りの発言）からスタートする指導構想
子どものゴールの姿を設定した上での授業づくりのために。
- (2) ICT の活用
ねらいに迫った学習活動を展開するとともに、対話の充実をはかるために。

主体的に考え、表現し、学び合う子

個別最適な学びと協働的な学びの実現



【授業の基盤づくり】

- (1) 大更スタディの取組：「身がまえ」「物がまえ」「心がまえ」の徹底
- (2) 基礎学力向上の取組：「かがやきタイム（朝活動）」→漢字タイム・計算タイム・読書タイム
- (3) 「対話」に生かせる聞き方・話し方スキルの向上：声出し・音読・トークトレーニング
- (4) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級づくり・授業づくり
- (5) 家庭との連携：家庭学習の取り組み

【児童の実態】 【学力検査の結果から】